

令和6年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

「うれしの茶」の維持・継承を担う生産技術の研鑽と地域活性化の取組

- 氏名又は名称 三根 孝之
○所 在 地 佐賀県嬉野市
○出 品 財 産物（茶（蒸し製玉緑茶））
○受 賞 理 由
・ 地域の概要

嬉野市は佐賀県南西部に位置しており、中山間地は「うれしの茶」の産地となっている。全国茶品評会において、令和5年は蒸し製玉緑茶の部で農林水産大臣賞及び産地賞を受賞し、釜炒り茶の部では令和元年から令和5年まで連続して農林水産大臣賞及び産地賞を受賞しており、高い茶生産技術が全国的に評価されている。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

三根孝之氏は、明治31年の初代創業者から代々続く茶業の家系の5代目であり、平成19年に親元就農した。生産技術の習得に取り組む傍ら、産地の茶生産者の減少に危機感を持ったことをきっかけに、地域の活性化に向けたうれしの茶の販売促進に精力的に取り組んでいる。令和2年に父から経営継承した後も品評会や販売先での評価は高く、また、経営基盤強化に向けた独自ブランドの創設により直接販売を拡大する等、高品質な茶生産を重視した安定的な経営が行われている。

・ 受賞者の特色

（1）高い栽培技術を活かした作期分散及び高品質な茶生産の実現

一番茶・二番茶ともほぼ全ての茶園で被覆栽培をすることにより、茶の品質を向上し高い収益を上げている。茶園の基盤整備・乗用型機械導入率向上による省力化や改植による品種構成の改善の他、茶園ごとの標高差を活かした計画生産や高い被覆栽培技術による摘採時期の制御により作期を分散し、少ない労力で高品質な茶生産を実現している。

（2）うれしの茶の高品質な茶生産技術の継承

就農した当初から、高品質な茶生産のため生産者同士で技術を研鑽する「嬉野銘茶塾」へ積極的に参加し、研修会や互評会等を通じて先輩の生産者から生産技術を学んできた。現在では、氏が後輩らへ教える立場となり、産地の茶生産技術の継承を担う中心人物となっている。

（3）若手茶生産者をけん引する地域活性化の取組

子供世代のため未来の茶業を守りたいとの思いから、産地の若手茶生産者をけん引し、新たな顧客層の獲得に向けた紅茶生産・販売促進を行う「うれしの紅茶振興協議会」や、人と人との繋がりを大切にしたコンセプトのギフト商品を開発した「グリーンレタープロジェクト」等に取り組み、生産者間のネットワークの強化・地域の活性化に大きく貢献している。

・ 普及性と今後の発展方向

産地を代表する高品質な茶生産を行うだけでなく、後輩生産者への技術指導や地域活性化の取組により、地域での信頼は厚い。また、同市内の異業種とも連携した地域活性化の活動でも存在感を示しており、農業の垣根を超えた活躍も期待される。